

## 募集要項

# 2020年度「インターンシップ専門人材研修会」

【実践編:STEP2】(4期)

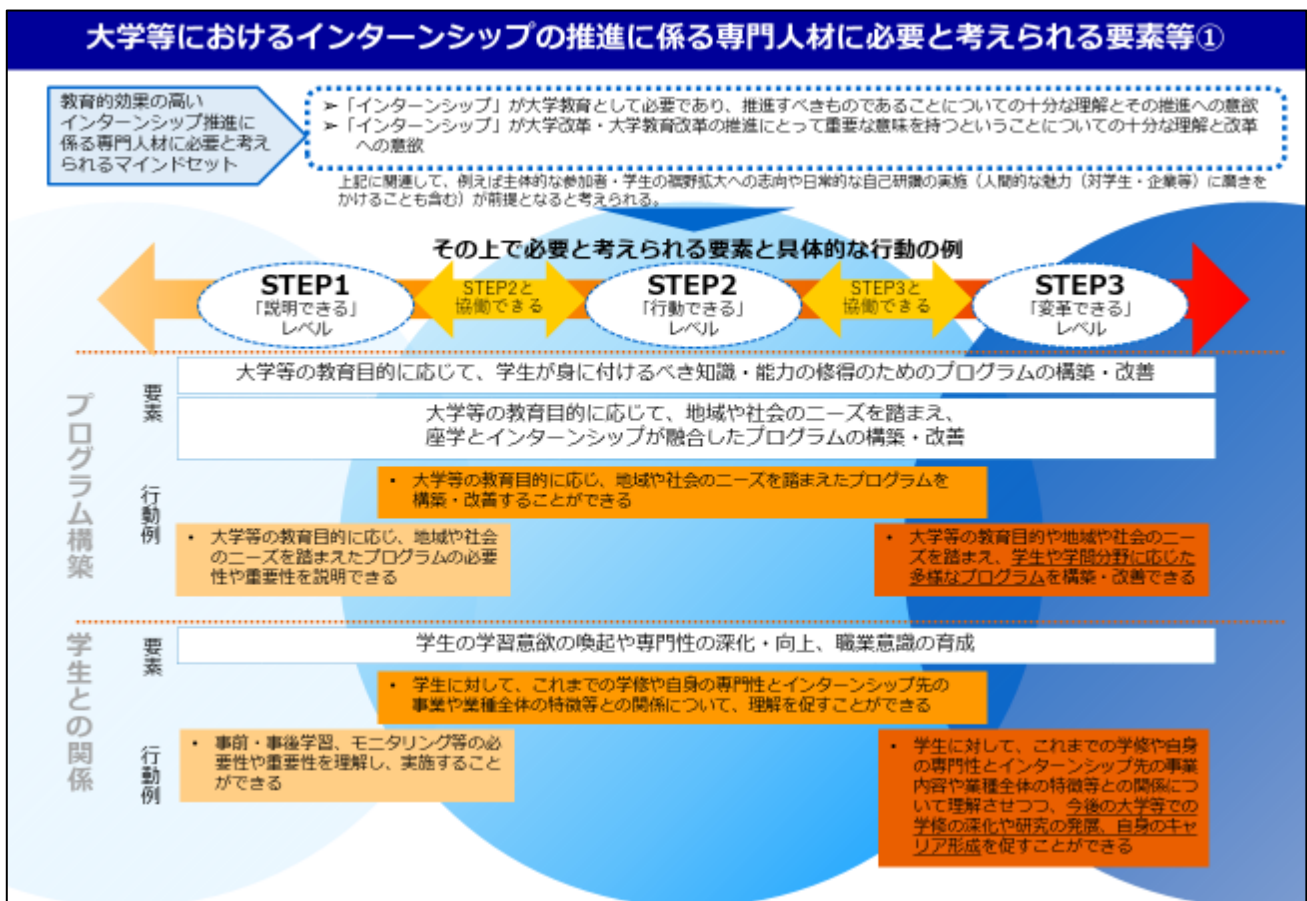
【発展編:STEP3】(3期)

新型コロナウイルスの影響により、インターンシップのあり方に大きな課題をもたらしました。同時に企業の採用活動のあり方にも変化をもたらし、今後のインターンシップに関する検討は、各大学において重要なテーマになっていくと思われます。このような混沌とした状況であるがゆえに、教育的効果の高いプログラムの構築・運営、大学・企業間の調整を担う「インターンシップ専門人材」の存在は不可欠です。

文部科学省から「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」(2018年5月31日付)が全国の大学等へ発信され、専門人材の育成・評価についての周知が図られました。高等教育において、これまでは“外”と認識されてきたインターンシップを“内”の構成要素として位置づけ、社会との連携・協働により学生の主体的な学修を促すことを目指しています。

このような社会的、政策的動向も踏まえ、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム(CIAC)では、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)と協力し、専門人材育成の体系的プログラムの構築を進めてまいりました。上記の文部科学省からの事務文書において専門人材の育成枠組み(STEP1～STEP3)が提示されています(下図参照)。この枠組みに準拠し、【STEP1】(「説明できる」レベル)を基礎編としてJASSOが「インターンシップ専門

### 文部科学省「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」



人材セミナー」によって担います。【STEP 2】（「行動できる」レベル）、【STEP 3】（「変革できる」レベル）については、CIACが「インターンシップ専門人材研修会」によって担います。【基礎編：STEP 1】【実践編：STEP 2】【発展編：STEP 3】と体系的なプログラムを段階的に受講することにより、インターンシップに関する知識、スキル、思考等を習得できます。

CIACでは、2020年度「インターンシップ専門人材研修会【実践編：STEP 2】【発展編：STEP 3】」受講者を以下の要領で募集します。今後の日本における教育的効果の高いインターンシップ推進を担っていく方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。

## 本研修 5つの特徴

- ◆ 文部科学省が提示する枠組みに基づいた体系的なプログラムにより、段階的にインターンシップに関する知識、スキル、思考等を習得することができます。
- ◆ 自大学で実施しているインターンシップについて客観的に振り返ることができ、教育的効果の高いプログラムへの改善、実施、推進、更には今後の新たなプログラム構築につながる実践的な内容です。
- ◆ レベルに応じた、経験ある担当者同士でのグループワークが中心であるため、他大学からのコメント、フィードバック、事例が得られ、インターンシップに関する課題について深く議論し、新たな知見、視点、発想が得られます。
- ◆ 参加者同士のネットワークを構築する機会となり、「インターンシップ専門人材コミュニティ」の一員となり、その後も継続的にコミュニケーションを図り、様々な情報を共有できます。
- ◆ 高等教育、インターンシップ、人材育成に精通する講師による知見も踏まえてのファシリテートで、新たな情報や出会いを楽しみながら参加者相互で学び合い、仕事に対する向き合い方を考える機会になります。

## 開催概要

### 1. 開催日時

【実践編：STEP 2】【発展編：STEP 3】ともに2日間のプログラムになります。

#### 【実践編：STEP 2】

日 程		時 間
1 日 目	2021年1月29日（金）もしくは 1月30日（土） <u>どちらかご都合のいい1日にご参加ください。</u>	両日とも 10:00～17:00
2 日 目	2021年2月5日（金）もしくは 2月6日（土） <u>どちらかご都合のいい1日にご参加ください。</u>	

#### 【発展編：STEP 3】

日 程		時 間
1 日 目	2021年3月5日（金）	両日とも 10:00～17:00
2 日 目	2021年3月6日（土）	

### 2. 開催方法

Zoomによる同時双方向型オンライン開催  
ネット環境、音声・映像が使用可能なPC等の端末をご準備ください。

### 3. 募集定員

定員は、各回30名です。 ※定員に達し次第、受付を終了いたしますのでご了承願います。

### 4. 受講対象者(条件)

**【実践編：STEP 2】**（「行動できる」レベル） 原則として以下①～⑤全てに該当する方

- ① JASSO が主催する「インターンシップ専門人材セミナー（基礎編）」の受講を修了している（過年度でも可）。もしくは、【基礎編：STEP 1】（「説明できる」レベル）に到達している（自己評価・認識で可）
- ② 自大学等のインターンシップ（企画・立案、運営、授業等）に概ね1年以上携わっている
- ③ 自大学等のインターンシップのプログラム（内容、資料等）を持ち寄れる（提供できる）
- ④ 高等専門学校、短期大学、大学等の高等教育機関に所属している教職員
- ⑤ 2日間全てのプログラムに出席できる

**【発展編：STEP 3】**（「変革できる」レベル） 原則として以下①～⑤全てに該当する方

- ① CIAC が主催する「インターンシップ専門人材研修会【実践編：STEP 2】」の受講を修了している
- ② 自大学等のインターンシップ（企画・立案、運営、授業等）に概ね3年以上携わっており、中心的な役割として大学教育改革に貢献できる立場にある
- ③ 自大学等のインターンシップのプログラム（内容、資料等）を持ち寄れる（提供できる）
- ④ 高等専門学校、短期大学、大学等の高等教育機関に所属している教職員
- ⑤ 2日間全てのプログラムに出席できる

### 5. 修了証/認定書の発行

【実践編：STEP 2】 全プログラムを受講された方に「修了証」を発行します。

【発展編：STEP 3】 全プログラムを受講された方に「修了証」を発行します。

【「CIAC 認定インターンシップコーディネーター」登録について】

全プログラムを修了された方のうち、一定の条件に同意し、希望する方には、「インターンシップ専門人材認定証」を授与するとともに、「CIAC 認定インターンシップコーディネーター」として登録され、インターンシップ専門人材コミュニティの中核的な活動が可能になります。（別途手続きが必要になります）。登録者は、名称及びロゴマークが使用でき、名刺等での周知ができます。

### 6. インターンシップ専門人材コミュニティへの参加

CIAC では、インターンシップ専門人材の社会的認知度の向上、継続学習、ネットワーク構築を進めています。そのために、本研修会の参加者には、以下のようなインターンシップ専門人材コミュニティへの参加、成果発表、CIAC 主催プログラムへの参加機会を提供しています。

- 参加者限定のグループメールに参加（任意）することにより、CIAC 及び参加者からの様々な情報提供を受けることができます。
- 研修会参加者を対象（限定）としたブラッシュアップ研修会（年1回程度）に参加することができ、その後の継続学習の機会を得ることができます。
- セミナー、フォーラム等への登壇、高等教育専門誌への寄稿等、自大学の取組成果の発表をお願いすることがあります。
- CIAC が企画・実施するプログラムへ参加する機会を得ることができます。
- 他大学との連携、地域連携、プログラム開発、学内推進等、CIAC によるコンサルテーションを受けることができます。

## 7. 具体的な研修内容

講師からの講義、国内・海外の先進事例も踏まえ、参加者の事例、課題を持ち寄ってのグループワーク、対話を通して、自大学の課題や改善ポイント等を明確化し、次年度からの取り組みにつながる実践的な内容です。

### 実践編：STEP 2 「行動できる」レベル

#### 【到達目標】

- ① 教育的効果の高いインターンシップの実施・運営のポイントを理解し、自大学のプログラムを客観的に評価・点検することで改善・改良することができる
- ② 高等教育の現状や政策的動向を把握し、その中で自大学の理念、特色、位置づけを認識することで、組織上、プログラム上の課題を抽出し、地域や社会のニーズを踏まえた改善案を提案、実行することができる
- ③ インターンシップを担当する意義や大学全体における役割を理解しており、学内外の先進的事例を応用しながら率先して取り組み、高い成果を生み出すことができる
- ④ 教職協働の視点で、学内の他部署とネットワークを形成し、どの部署と協働すると効果的に業務が遂行できるか把握しており、必要に応じて他部署と連携、調整を図りながら意欲的に業務を遂行することができる
- ⑤ 受入企業等と良好な関係を継続するとともに、企業、大学双方の目的をすり合わせ、新たな受入企業を開拓することができる

#### 1 日目

■研修の目的、自己紹介、アイスブレイク

#### セッション①

- ・高等教育の現状と今後、政策的動向の理解
- ・自大学の位置づけと状況認識
- ・産学協働教育と大学教育の結びつき

#### セッション②

- ・大学教育におけるインターンシップの意義
- ・自大学における実施目的・教育的効果の明確化
- ・インターンシップの普及状況と担い手の理解
- ・専門人材の業務と役割

#### セッション③

- ・学修プログラムの設計
- ・教育的効果を最大化する事前・事後学習
- ・就業期間のモニタリングとフォロー

【イブニングセッション（情報交換会）】

#### 2 日目

#### セッション④

- ・企業との協働関係構築とプログラムの設計方法
- ・「教育的効果」と「企業メリット」を両立させるためのプログラム設計
- ・ロールプレイ実習  
(大学・企業の協働関係を目指して)

#### セッション⑤

- ・リモートインターンシップの事例検討
- ・リモートインターンシップと対面インターンシップの相違
- ・リモートインターンシップの目的と設計

#### セッション⑥

- ・インターンシップの法的留意点
- ・運営上のリスク管理（学生・大学・企業）
- ・インターンシップの契約書作成の主なポイント

#### セッション⑦

- ・プログラムの評価・振り返り
- ・評価の観点と手法
- ・継続的改善の実施

まとめ：学びの総括と行動計画の立案

※研修内容は予定です。変更になることがありますので、ご了承ください。

【到達目標】

- ① 教育的効果の高いインターンシップの実施・運営のポイントを理解し、大学（教育）改革につながる新たなプログラムを企画立案・提案し、実施することができる
- ② 高等教育の現状や政策的動向を批判的に分析・検討し、その中で自大学の理念、特色、位置づけ、課題を抽出することで、組織を改編し、地域や社会のニーズを踏まえた新たなプログラムを作り出し、実行することができる
- ③ 大学全体の課題を抽出し、改善のためのデータ、情報を収集・分析し、教育目的に応じたインターンシップ推進の具体案を策定・実行する上で、指導的役割を果たし高い成果を出すことができる
- ④ 執行部、関係部署の責任者が納得する説明ができ、他部署と合意形成を図り自他のモチベーションを高めながら全学的な視点でリーダーとして業務を遂行することができる
- ⑤ 受入企業等と良好な関係を継続し、新たな受入企業を開拓するとともに、受入企業の課題を把握し、課題解決の方法を考え、協働して実行することができる

1 日目

2 日目

■研修の目的、自己紹介、アイスブレイク

セッション①

- ・高等教育及び関連する諸政策のキーワード理解と動向分析、それらを総合的に理解するための枠組形成
- ・「大学改革としてのインターンシップ」の捉え方
- ・カリキュラム構成の考え方とインターンシップ・プログラムの定位
- ・産学協働人材育成への展望

セッション②

- ・With コロナ社会だからこそ考える思考フレーム
- ・「デザイン思考」とは何か
- ・「デザイン思考」で大学教育改革とインターンシップを考える
- ・イノベーションの重要性に対するマインドセットとその推進の全体像を知る

セッション③

- ・長期・有給型インターンシップの法的留意点、運営上のリスク管理（学生・大学・企業）
- ・長期・有給型の雇用保険、社会保険等の取扱い
- ・長期・有給型の契約書作成の主なポイント

【イブニングセッション（情報交換会）】

セッション④

- ・大学教育とインターンシップに関わるイノベーション、改革推進の理解と必要性
- ・自大学の現状に関する情報収集と整理・分析
- ・分析ツールの理解と選択
- ・分析した状況をベースとした自大学の課題や目標の設定
- ・自大学の課題解決のための具体的アイデア立案
- ・イノベーションの実行戦略立案

セッション⑤

- ・インターンシップ専門人材としての価値観と倫理
- ・大学教育改革における「専門的職員」の現状と課題
- ・専門人材としての倫理的行動規範の在り方

まとめ：学びの総括と行動計画の立案

※研修内容は予定です。変更になることがありますので、ご了承ください。

## 8. 講師

### 松高 政 (CIAC 代表理事/京都産業大学 経営学部准教授)



教育サービス系企業において、大学におけるキャリア教育に関する調査研究、企画開発に携わり2007年4月より京都産業大学に在職。産学協働教育科目を中心に担当し、他大学へも広くプログラムの普及・推進を図っている。文科省「インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議」委員、経産省「教育的効果の高いインターンシップの普及に関する調査委員会」委員等を歴任。現在の研究テーマは、若年層のキャリア形成・職業能力開発、産学協働教育。

### 西條 秀俊 (CIAC 理事/新潟大学 教育・学生支援機構教育プログラム支援センター副センター長)



金融機関にて、営業を経験した後、人事採用・研修責任者として人材育成に関わる。2005年4月より新潟大学に在職。1級キャリアコンサルティング技能士資格を活かし、キャリア教育等の教育、学生支援を行っている。新潟大学長期・有償型インターンシップ、経済同友会連携・長期インターンシップ等の企画立案及び実践に関わり、高い教育的効果を生み出す。専門は、キャリア教育、若年者のキャリア意識形成など。

### 川島 啓二 (CIAC 理事/京都産業大学 共通教育推進機構客員教授/初年次センター長)



京都大学大学院教育学研究科学修認定退学。文部科学省国立教育政策研究所高等教育研究部長、九州大学基幹教育院教授・次世代型大学教育開発センター長を経て、2017年9月から、京都産業大学共通教育推進機構教授/学長特命補佐。専門は高等教育論。FDや大学組織、学生支援について研究。大学教育再生加速プログラム委員会(AP)委員、日本学生支援機構「学生支援の取組状況に関する調査協力者会議」主査。

### 原 正紀 (CIAC 理事・事務局長/株式会社クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役社長)



早稲田大学法学部卒業後、大手メーカーを経てリクルートへ入社し、企業や官公庁、大学などへの提案活動を行った後に起業。人材に関する多様な提案を行い、多数の企業の成長・変革をサポートすると同時に、官公庁や教育機関のプロジェクト受託も行う。企業の採用、人材育成に精通し、著書は『定年後の働き方は40代で決めなさい』『採用氷河期』『間違いだらけの会社選び』など10冊以上、年間講演は50回以上、「キャリア教育アワード」「ジョブカード」など国や自治体の委員経験は多数あり。高知大学経営評議会委員兼客員教授、成城大学非常勤講師。

## 9. 受講申込等

### (1) 申込方法

- 以下の申込受付フォーム、もしくはCIAC ホームページよりお申込みください。

申込受付フォーム：<https://forms.gle/GaGtHguVsg3gShD9> (クリックいただくと申込フォームにリンクします)

CIAC ホームページ：<https://www.j-ciac.org/cont5/main.html>

### (2) 受講料等

- 受講料：お一人 25,000 円 (税込)
- 申込受付後に、振込み等の詳細についてご連絡いたします。

### (3) キャンセルポリシー

- 「開催日の3日前 17:00 まで」は、キャンセルを無料(但し、振込手数料を差し引いた金額)でお受けします。上記日時を過ぎた場合は、全額をご負担いただきます。ご了承ください。

### (4) イブニングセッション (情報交換会)

- 1日目終了後に1時間程度のイブニングセッション(情報交換会)を開催いたします。本研修会の一環として、インターンシップに関するトピックについての意見交換、参加者同士のネットワーク構築の機会として開催いたします。可能な限りご参加ください。

## 【参加者からのメッセージ】



### 東北学院大学 就職キャリア支援課 係長 三浦 拓也氏

(2018年度【実践編】、2019年度【発展編】参加)

【実践編】の受講を終えた時には、教育的効果の高いインターンシップに求められる要素をどのように本学の取り組みで実現するか、思いを巡らせながら帰途についてを記憶しております。実施目的の具体化やプログラム評価の導入など、そのいくつかを実行することができました。【発展編】の受講を経て、インターンシップは教育改革に繋がるという確信を得ることができましたが、専門人材コミュニティへの参加資格を得られたことも大変重要な成果でした。インターンシップは、「働くを学ぶ」取り組みであると考えています。働き方や学び方が変われば、インターンシップも変わらなければなりません。その中で大切なことは、専門人材が学生の学びの側面をサポートしながら、関わり合う全ての立場の人がそれぞれに意義を感じられる取り組みになるよう仲立ちすることです。インターンシップ専門人材コミュニティは、学びの方向性が一致しているからこそ、あるいは切磋琢磨し、あるいは知見を共有することができる学校です。その一つの結実が2020年夏の合同リモートインターンシップとなりました。みなさまと共に学び続けられることを楽しみにしております！



### 岩手県立大学 キャリアセンター キャリア形成支援専門員 高橋 郁磨氏

(2018年度【実践編】、2019年度【発展編】参加)

「貴学にとってインターンシップの教育的効果とは、何ですか？」と、いざ問われると上手く答えられないことを考えるところから始まりました。研修会は、7つのテーマによるセッションに分かれており、同じ志と悩みを持つ者同士情報共有をしながら、時に各々の記憶をたどりながら課題と対策を検討していきます。私の所属する岩手県立大学での取り組みは比較的充実しているだろうと考えていましたが、テーマによっては明らかに注力の濃淡があることが分かると同時に、短・中・長期的に取り組むべきことがアイデアとなって生まれてきました。大学に戻り私はすぐにインターンシップ実施の目的を明文化し学生と企業に理解させることや、評価ルーブリックの構築などに取り掛かりました。たった2日間の研修会でしたが、多くの新たな取り組みにつなげられたことは大きな収穫でした。

実践編の修了後、本学において学生のキャリア形成支援を担う正規専門職員の採用試験に合格し、引き続き試行錯誤を繰り返しています。講師の先生方にはこの場を借りて御礼申し上げます。



### 山形大学 学術研究院 (学士課程基盤教育機構) 准教授 山本 美奈子氏

(2017年度【実践編】、2018年度【発展編】参加)

本研修会では、インターンシップのプログラムを俯瞰し、体系的な取り組みとして可視化することの重要性を学びました。本学では、地域の中小企業と連携し大学1年生を対象にインターンシップを行っています。本研修会では、自大学で取組んでいる内容を発表し、参加者同士で相互評価をしますが、「特にプログラムで工夫している点は何か？」と尋ねられ、上手く回答することができませんでした。本学では多くのことを取組んでいます、体系化できていなかったからです。早速持ち帰り、授業担当教員や事務職員と共有し、プログラムを整理し体系的に可視化することを行いました。その結果、教育的効果が高いインターンシップとして文部科学省の第1回「大学等におけるインターンシップ表彰」で最優秀賞を頂きました。また、論文では「中小企業インターンシップの教育的効果の検討—低学年次を対象としたプログラムに着目して—」(キャリアデザイン研究 2019)に掲載が決定しました。本研修会は、インターンシップを実践している教職員の方達とともに、総合的な学習に取り組み、フィードバックしあうことでプログラムの課題と改善を考える機会になると考えます。

「2020年度インターシップ専門人材研修会【実践編】【発展編】」の開催にあたって

ー専門人材育成の考え方と体系的な育成システムの構築についてー



独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部長 井上 示恩氏

産業や経済の構造的変化や雇用形態の多様化・流動化が進み、学校から職業の移行が困難となる中、学生一人一人が「生きる力」を身につけ、様々な困難に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが課題となっています。この課題に大学等が教育として対応するものがキャリア教育であり、大学等における教育・学びと仕事における実践を架橋するものとして、その必要性がますます大きくなっています。また、インターンシップは、キャリア教育における効果的な教育手法の一つであり、産学協働教育の有力な手段です。教育的効果の高いインターンシップを推進するためには、当事者である大学等、学生、企業の三者が、当該インターンシップの教育的意義や内容についての共通認識を構築することがまず不可欠です。この共通認識を基礎としつつ、インターンシップを推進する専門的な人材が、すなわち専門人材であり、その育成・配置の必要性が一層増しています。

専門人材の機能には、大きく分けて、教育的効果の高いプログラムの構築・運営と、大学等と企業との調整に基づく学生と企業のマッチングの2つがあります。平成30年5月31日付け文部科学省事務連絡「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」（以下「事務連絡」）において、これらの機能に基づく具体的な行動例がレベル別に示されています。

また、専門人材を効果的に育成・配置していくためには、関係機関が連携して育成プログラム内容の調整を実施し、体系的な育成システムを構築していくことが求められます。

具体的には、事務連絡が提示している専門人材に必要とされる行動例の各ステップ（STEP 1からSTEP 3）のうち、日本学生支援機構（JASSO）が実施するセミナーでは、主としてSTEP 1までの基礎編を担当することとします。他方、STEP 2（実践編）、STEP 3（発展編）については、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム（CIAC）の研修会が担当します。今後、CIACとJASSOが、役割分担を明確にしつつ緊密な連携を行い、専門人材の育成プログラムを体系的に提供してまいります。

参加者の皆様におかれましては、以上の趣旨を是非ご理解いただき、各大学等におけるインターンシップの推進、専門人材の育成・配置にご協力・ご尽力をいただきますようお願いいたします。

次世代の人材育成に関して産（企業・地域・行政・経済団体等）と学（高校・大学等）の協働を強化する場を創設し、総論ではなく具体的な実践を通して、産学協働による人材育成・活用の継続的な発展・推進を目的に2017年5月に一般社団法人として設立。地域を越えた全国型プラットフォームを構築することによって、多様なプログラム・取組を俯瞰し、先進事例・ノウハウ・課題の共有、コンサルティング、ノウハウ移転、情報交流・相互支援が可能となり、個別では困難な課題解決への方策を得ることで、日本全体の質的向上を目指し活動をしています。

【お問合せ先】

一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム 事務局  
(株式会社クオリティ・オブ・ライフ内)  
〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-2-22 千代田ビル2F  
Mail : info@qol-inc.com